令和8年度（2026年度）

カリキュラム編成書

建築科

東北電子専門学校

学 科 概 要 書

建築科

育成人材像

① 各種一般構造、建築材料等の建築物の知識や建築基準法の知識をもとに設計事務所で、図面の作成ができるようになる。
② 建築施工や施工計画の知識をもとに建築工事現場での検査、調査業務、原価、工程、品質の管理ができるようになる。
③ 建築生産の知識をもとに木造建築工事のリフォーム施工現場での設計、施工管理業務ができるようになる。
④ 少子高齢化が進む昨今、建築計画の知識をもとに耐震改修やバリアフリー工事の相談・提案ができるようになる。
⑤ 今後増加が見込まれるリノベーション工事で、建築材料、住宅計画、建築史、建築設備の知識を身に付けることでお客様の要望を聞き取り、提案ができるようになる。

身に付ける能力

① 建築計画や建築史、環境設備の知識を身に付けることで新築工事・リフォーム工事を問わずお客様の相談業務に対応することができる。
② 建築関連法規の知識を身に付けることで、建築確認申請の業務に携わることができる。
③ 構造力学や建築構造の知識を身に付けることで、建築設計の業務に携わることができる。
④ 建築施工の知識を身に付けることで、工事現場において現場監督や、現場調査業務に携わることができる。
⑤ 建築計画、設備、構造、建築材料、建築積算、建築関連法令など建築工学系の知識を身に付けることで、建築設計業務全般、施工管理業務全般の対応ができる。

⑥ 建築業界内で主流となっているCAD、BIMのソフトを使いこなす技術を身に付けることで、今後ますます多様化する顧客のニーズに応えられる提案ができる。
⑦ 上記の知識を身に付けることで、建築士試験、施工管理技士試験に対応することができる。

教育課程編成方針

① 豊かな教養と社会常識、建築業界就職に必要な知識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
② 1年次は、建築業界における基礎的知識、BIMの基本的操作技術習得、建築士試験に必要な製図力、建築工学を身に付けるための専門科目を配置する。
③ 2年次は、建築業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目として、1年次に身に付けた、基礎的知識の応用による演習、BIMの操作法の応用・並びに各種CADソフトを使いこなし、プレゼンテーション力を高める技術を身に付けるための専門科目を配置する。
④ 1年次通年で企業と連携した実習科目を配置する。

授業実施の方針

① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニング、業界企業研究とする。
② 建築工学分野における知識修得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。
③ BIM・CADソフトの操作技能を身に付けるための専門科目は、実習形式で行う。年間5作品程度の図面を作成した上でプレゼンテーションを行い、建築業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける。
④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した実習授業は、1年次に2科目実施する。
・建築設計製図Ⅰでは地元工務店の指導のもと木造住宅の骨組みを作る「木造軸組み実習」を行う。
・CAD設計ⅡではBIM活用の先駆的企業の指導のもと、実務に即したレベルでBIMの操作技術と応用学ぶ。

目標資格

・二級建築士・一級建築士（卒業後、受験資格が得られる） ・2級建築施工技術検定試験一次
・CAD利用技術者試験

目指す職種

・設計技術者
・建築施工管理技術者
・ハウジングアドバイザー

企業連携実習

・株式会社Arch5
・(有)栗駒建業

業界や企業との提携／外部イベント／コンテスト等

・資格学校である建築資料研究社日建学院との連携により、2級建築施工技術検定試験の模擬試験を実施
・建築士事務所協会、日本建築家協会の主催する設計競技、および建築士事務所協会主催の講習会や株式会社アイカ主催のデザインセミナーに参加

科 目 関 連 図

学 科 名	建築科
コ ー ス 名	

作成日：2026年　4月　1日

建築科

1年

建築科　　科目コード

科目名	就職対策ＩA					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	1年次	履修学期	前期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	木須　紀子			実務経験					
目的／概要	本校は職業人育成のため、実務教育のみならず、人間教育にも力を注いでいる。特に人間性育成の面では、入学直後からのあいさつ運動に象徴されるように、コミュニケーション能力の向上を意識した教育を行っている。「就職対策Ｉ」では、あいさつ以外にもビジネスの現場で重要とされる、〝立ち居振る舞い〟、〝言葉遣い〟、〝電話対応〟など、社会人として身につけておきたいマナーをDVD教材で学び、さらにロールプレイングで実践をとおして定着させることを目的とする。 習熟度に応じたクラスを編成し、一般常識や適性試験対策を中心に学習する。								
到達目標	・ビジネスマナー ・職業意識、就業意識を身につける。 ・立ち居振る舞いなどの基本動作やマナー、社会人としての正しい言葉遣いを身につける。 ・面接対策 ・面接の目的を知り、自己分析を通して己を知ることにより「何ができるのか」「何ができるのか」「何をしたいのか」を見つける。 ・適切な自己PR・志望動機・エントリーシート・履歴書を作成できるようになる。 ・適切な企業訪問ができ、面接試験で自分をアピールできるようになる。 ・職業理解 ・各自の就職活動において、進むべき道を自ら選択できるようになる。 ・職業意識、就業意識を身につける。 ・立ち居振る舞いなどの基本動作やマナー、社会人としての正しい言葉遣いを身につける。								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	・テキスト: ビジュアルで学ぶシリーズ これだけは知っておきたい！　面接対策＆ビジネスマナー(ウィネット) (ワークブック付属) ・Webコンテンツ: ラインズドリルベーシック、ラインズSPI(ラインズ社)								
履修上の注意	・グループディスカッションでは、積極的に自分の意見を述べること。 ・就職活動は自分自身が自分のために行う活動であり、自主的にそして積極的に学ぶこと。								
成績評価の方法	・定期試験(一般常識実力テスト):50% ・自己分析ワークシートなどの課題提出物:30% ・グループワーク等・授業に取り組む姿勢:20%等により総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

	テキスト・ワークブック	ラインズ
第1週	科目オリエンテーション	ラインズベーシック　数学　1.数の体系1
第2週	Ⅰ. 社会人になるとは①	ラインズベーシック　数学　2.数の体系2
第3週	Ⅰ. 社会人になるとは②	ラインズベーシック　数学　3.単位/組み合わせ・確率
第4週	Ⅱ. 基本動作	ラインズベーシック　数学　4.量の関係・文字式・関数
第5週	Ⅲ. 言葉遣い①	ラインズベーシック　数学　5.累乗・2次方程式
第6週	Ⅲ. 言葉遣い②	ラインズベーシック　数学　6.図形
第7週	Ⅳ. 電話対応①	ラインズベーシック　数学　総まとめ
第8週	Ⅳ. 電話対応②/Ⅴ. インターネット・電子メール利用のマナー	中間試験
第9週	Ⅰ. 面接の目的①	ラインズSPI　SPI解答のテクニック　非言語(基礎) ①
第10週	Ⅰ. 面接の目的②	ラインズSPI　SPI解答のテクニック　非言語(基礎) ②
第11週	Ⅱ. 自己分析①	ラインズSPI　SPI演習問題　非言語(基礎)①
第12週	Ⅱ. 自己分析②	ラインズSPI　SPI演習問題　非言語(基礎)②
第13週	就職支援プログラム①	ラインズSPI　SPI演習問題　非言語(基礎)③
第14週	就職支援プログラム②	ラインズSPI　SPI演習問題　非言語(基礎)　総まとめ
第15週	前期まとめ/期末試験	期末試験

※授業時間に、付属のワークブックの記入や動画の視聴も一部含む。
※就職支援プログラムの実施時期は前後する場合がある。

建築科　　科目コード

科目名	就職対策ＩＢ					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	1年次	履修学期	後期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	木須　紀子			実務経験					
目的／概要	目的：就職活動において、各種審査・試験(書類審査、筆記試験、面接試験等)に対応できる力を身につけることにより、希望する企業への内定を獲得する。 概要：テキストと動画視聴、ワークブックにより、書類の作成や面接対策など、就職活動で必要とされる対応力を身につける。またWebコンテンツを使用し、一般常識や適性試験対策を中心に就職活動における筆記試験対策を行う。								
到達目標	・就職活動で必要な書類、特に履歴書をしっかりと完成させることができる。 ・就職活動を前提に、社会人としての常識やモラル、立ち居振る舞いを身につける。 ・面接試験においては物おじせず、自分の考えを相手に伝えることができる。 ・一般常識やSPIを繰り返すことにより、スキルの向上を図る。								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	・テキスト：ビジュアルで学ぶシリーズ これだけは知っておきたい！　面接対策＆ビジネスマナー(ウィネット) （ワークブック付属） ・Webコンテンツ：ラインズドリルベーシック、ラインズSPI(ラインズ社)								
履修上の注意	・就職対策ＩＡを履修していること。 ・就職活動は卒業後の進路を決める重要な活動であり、本授業はその礎を築くものである。就職活動を主体的に捉え、積極的に取り組むこと。 ・ラインズは授業以外の時間も使用し、積極的に進めること。								
成績評価の方法	・定期試験(一般常識実力テスト)：50% ・自己分析ワークシートなどの課題提出物：30% ・グループワーク等・授業に取り組む姿勢：20%等により総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

	テキスト・ワークブック	ラインズ
第1週	就職支援プログラム①	ラインズSPI　SPI解答のテクニック　非言語①
第2週	就職支援プログラム②	ラインズSPI　SPI解答のテクニック　非言語②
第3週	Ⅲ．自己PR作成①	ラインズSPI　SPI演習問題　非言語①
第4週	Ⅲ．自己PR作成②	ラインズSPI　SPI演習問題　非言語②
第5週	Ⅳ．志望動機作成①	ラインズSPI　SPI演習問題　非言語③
第6週	Ⅳ．志望動機作成②	中間試験
第7週	Ⅴ．エントリーシート・履歴書作成①	ラインズSPI　SPI解答のテクニック　言語
第8週	Ⅴ．エントリーシート・履歴書作成②	ラインズSPI　SPI演習問題　言語①
第9週	Ⅵ．企業訪問①	ラインズSPI　SPI演習問題　言語②
第10週	Ⅵ．企業訪問②	ラインズSPI　SPI演習問題　言語③
第11週	Ⅶ．面接試験①	ラインズSPI　SPIマークシート
第12週	Ⅶ．面接試験②	ラインズSPI　SPIWebテスティング
第13週	Ⅶ．面接試験③	ラインズSPI　SPIテストセンター
第14週	模擬面接	ラインズSPI　総まとめ
第15週	前期まとめ/期末試験	期末試験

※授業時間に、付属のワークブックの記入や動画の視聴も一部含む。
※就職支援プログラムの実施時期は前後する場合がある。

建築科　　科目コード

科目名	建築設計製図ＩA					企業連携	対象科目	授業方法	実習・講義
履修年次	1年次	履修学期	後期	時限／週	3	総授業時間	90	単位	3
担当教員	安田　亜乃ん			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。建築物を設計した経験を活かし、手書き製図の実践的な教育を行う。				
目的／概要	建築の表現方法の基礎である、設計図書の理解と作成方法を習得する事を目的とする。また、図面から建築物をイメージできる事も同時に求められる。 建築物を観察し表現する事から始め、建築物を図面、パースで表現する手法と、他者に伝えるプレゼンテーション方法を習得する。また、木造在来工法の特性を理解するため、連携企業である株式会社栗駒建業の木造建築物の組立て等作業主任者の元で板図作成、墨付、加工、建て方の体験実習を行う。								
到達目標	・製図用具の扱い方、線、文字、JIS規格等を学び、基礎製図の基本技術を習得する。 ・建築物を観察し、スケッチ、採寸しスケール感を習得する ・建築設計図の種類・描き方の基礎を学び、作図技術を習得する。 ・建築設計図を元にパースを作成し、図面と建築物の関係を学ぶ。 ・習得した技術を駆使し、住宅などの建築作品を調査研究し、他の科目と連携しながら、図面、パースを作成し、プレゼンテーションを行う。 ・在来木造軸組の作成を通し、木造在来工法の特性を理解し設計に生かせるようになる。								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	コンパクト建築設計資料集成（丸善） 基礎講座 建築設計製図（学芸出版社）　建築設計製図ワークノート（実教出版）								
履修上の注意									
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 実習点70％（専任教員授業80％+企業連携授業20％） （提出点40％+課題点60％） 提出点：演習課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点：演習課題の完成レベルと制作の工夫などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	製図の基礎と製図道具の使い方①
第2週	製図の基礎と製図道具の使い方②
第3週	製図の基礎と基礎製図の作図①
第4週	製図の基礎と基礎製図の作図②
第5週	木造軸組み図面の作成法①
第6週	木造軸組み図面の作成法②
第7週	木造軸組み図面の作成法③
第8週	木造軸組み図面の作成法④
第9週	木造軸組み図面の作成法⑤
第10週	木造軸組み図面の作成法⑥
第11週	矩計図の作成法①
第12週	矩計図の作成法②
第13週	木造軸組み実習（企業連携）①
第14週	木造軸組み実習（企業連携）②
第15週	木造軸組み実習（企業連携）③

建築科　　科目コード

科目名	建築設計製図ＩB					企業連携		授業方法	実習・講義
履修年次	1年次	履修学期	後期	時限／週	3	総授業時間	90	単位	3
担当教員	安田　亜乃ん			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。建築物を設計した経験を活かし、手書き製図の実践的な教育を行う。				
目的／概要	設定された条件を整理し空間化する設計プロセスを習得する。また、建築構造、仕上材料を選定し、建築構法についての理解を深める。								
到達目標	・敷地調査　設定された敷地の調査・観察を行い、敷地の特性を把握する手法を習得する。 ・構造が空間を構成する課題設計　鉄筋コンクリート造、鉄骨造などの各種構造の特性を理解し、設定空間に適した建築構造を設定する手法を習得する。 ・公共施設課題設計　敷地の特性を読み取り、複数の人が利用する場面を想定し、空間化する手法を習得する。1年次の最終課題として他の科目と連携しながら、総合的なプレゼンテーションを行う。（設計主旨・配置図・平面図・立面図・断面図・アイソメ・模型写真を配置したプレゼンボード、模型、発表用スライド）								
目標資格	一級建築士、二級建築士								
前提知識	建築設計製図ＩAまでの履修								
使用教材	コンパクト建築設計資料集成（丸善） 基礎講座 建築設計製図（学芸出版社）								
履修上の注意	丁寧に正確に描くことはもちろんであるが、指示された時間内に書き上げること。（提出期限厳守） 各図面間の整合性を確認できること。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 実習点70％（提出点40％+課題点60％） 提出点：課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点：課題の完成レベルと制作の工夫などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	敷地調査（広域情報の把握、フィールドサーベイ、敷地模型）①
第2週	敷地調査（広域情報の把握、フィールドサーベイ、敷地模型）②
第3週	敷地調査（広域情報の把握、フィールドサーベイ、敷地模型）③
第4週	敷地調査（広域情報の把握、フィールドサーベイ、敷地模型）④
第5週	構造が空間を構成する課題設計（木造、非木造小空間）①
第6週	構造が空間を構成する課題設計（木造、非木造小空間）②
第7週	構造が空間を構成する課題設計（木造、非木造小空間）③
第8週	構造が空間を構成する課題設計（木造、非木造小空間）④
第9週	構造が空間を構成する課題設計（木造、非木造小空間）⑤
第10週	公共施設課題設計（非木造集会施設、またはその類似用途）①
第11週	公共施設課題設計（非木造集会施設、またはその類似用途）②
第12週	公共施設課題設計（非木造集会施設、またはその類似用途）③
第13週	公共施設課題設計（非木造集会施設、またはその類似用途）④
第14週	公共施設課題設計（非木造集会施設、またはその類似用途）⑤
第15週	補習

建築科　　科目コード

科目名	CAD設計ＩA					企業連携		授業方法	実習・講義
履修年次	1年次	履修学期	前期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	伊藤　奈緒美			実務経験					
目的／概要	近年の建築活動においてはコンピュータ、インターネットの利用が欠かせない物となっている。本授業においては2年間の実習科目で利用するコンピュータ利用技術の基礎を身につける。 BIMソフトを中心にCG、写真加工の基礎技術を修得し、建築物の表現方法とプレゼンテーション技法を学ぶ。								
到達目標	・ワークステーション環境下でのコンピュータの基本操作を習得し、データの管理、共有ができるようになる。 ・インターネットによる情報の入手法を習得し、最新の建築物、建築家を調査研究する。さらに、結果を各種アプリケーションを組み合わせ、ビジュアルにプレゼンテーションする。 ・BIMによる建築モデリングと図面化の操作を修得し、建築製図法を理解する。 ・建築物の写真撮影法と、コンピュータ上での写真加工方法を習得する。 ・習得した技術を駆使し、住宅などの建築作品を調査研究し、他の科目と連携しながら、図面、パースを作成し、プレゼンテーションを行う。								
目標資格	CAD利用技術者試験								
前提知識	特になし								
使用教材	第3版　コンパクト建築設計資料集成（丸善） Archicad 26ではじめるBIM設計入門［企画設計編］								
履修上の注意	指定された提出期限を厳守する事。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 実習点70％（提出点40％+課題点60％） 提出点：課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点：課題の完成レベルと制作の工夫などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	ワークステーション環境下の基本操作
第2週	iPad、インターネットを利用した建築物、建築家の調査研究、プレゼンテーション
第3週	建築写真と写真加工
第4週	BIMの基本操作の習得①
第5週	BIMの基本操作の習得②
第6週	BIMの基本操作の習得③
第7週	BIMによる建築製図の演習①
第8週	BIMによる建築製図の演習②
第9週	BIMによる建築製図の演習③
第10週	BIMによる建築製図の演習④
第11週	BIMによる建築製図の演習⑤
第12週	名作住宅の建築意匠図とパースの作成①
第13週	名作住宅の建築意匠図とパースの作成②
第14週	名作住宅の建築意匠図とパースの作成③
第15週	演習

建築科　　科目コード

科目名	CAD設計ＩB					企業連携	対象科目	授業方法	実習・講義
履修年次	1年次	履修学期	後期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	伊藤　奈緒美			実務経験					
目的／概要	BIMのモデリングを通し建築物の一般構造の詳細を理解し、実施設計に必要な設計図書の作成法を理解する。また、CG、VR、動画作成技術を駆使して建築空間・仕上材料をシミュレーションし設計する。								
到達目標	・建築意匠図の作成を通して、一般構造、部分詳細を理解し、ビルディングインフォメーションモデル(BIM)の作成法を習得する。 ・BIMデータを元に建築物を3次元化しフォトリアリスティックなパース作成法を習得する。 ・マッピング、写真加工技術を利用し建築材料の選定法を習得する。 ・習得した技術を駆使し、小規模公共施設課題を、他の科目と連携しながら設計し、プレゼンテーションを行う。。(設計主旨・配置図・平面図・立面図・断面図・アイソメ・パースを配置したプレゼンボード、発表用スライド、動画)								
目標資格	一級建築士、二級建築士、CAD利用技術者試験								
前提知識	CAD設計ＩA、建築設計製図ＩAまでの履修								
使用教材	コンパクト建築設計資料集成(丸善) Archicad 26ではじめるBIM設計入門[企画設計編]								
履修上の注意	建築設計製図ＩA・Bにて自身で設計した建築物をCADを利用して完成度を高めていく。 この為、建築設計製図ＩA・Bの課題を期限通りに設計することが重要である。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30% 実習点70%(提出点40%+課題点60%) 提出点:課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点:課題の完成レベルと制作の工夫などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	BIMによる建築意匠図、パースの作成(木造住宅)①
第2週	BIMによる建築意匠図、パースの作成(木造住宅)②
第3週	BIMによる建築意匠図、パースの作成(木造住宅)③
第4週	BIMによる建築意匠図、パースの作成(木造住宅)④
第5週	BIMによる建築意匠図、パースの作成(木造住宅)⑤
第6週	BIMによる実施設計図の作成(木造住宅)①
第7週	BIMによる実施設計図の作成(木造住宅)②
第8週	BIMによる実施設計図の作成(木造住宅)③
第9週	写真加工を利用した建築仕上材料の検討(木造住宅)①
第10週	写真加工を利用した建築仕上材料の検討(木造住宅)②
第11週	写真加工を利用した建築仕上材料の検討(木造住宅)③
第12週	公共施設課題設計(非木造集会施設、またはその類似用途)(企業連携)①
第13週	公共施設課題設計(非木造集会施設、またはその類似用途)(企業連携)②
第14週	公共施設課題設計(非木造集会施設、またはその類似用途)(企業連携)③
第15週	演習

建築科　　科目コード

科目名	建築計画ＩA					企業連携		授業方法	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	菅原　麻衣子			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物の企画計画を行った経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	建築物を計画するための基本的な考え方や、手法を習得する。また、建築の歴史からも多様な建築文化を理解する。								
到達目標	・建築の表現：設計のプロセス、各種図面、表現を説明できる。 ・室と場面：人体寸法～行為～単位空間の理解、各種場面における計画要素を説明できる。 ・日本建築史：現在のわが国の生活様式と意匠の原点を説明できる。 ・西洋建築史：わが国の建築に影響を与えた諸外国の建築の歴史から近代建築を説明できる。 ・歴史をとおして住生活と住形式を説明できる。 ・歴史と習慣を交え、その変遷にいたる経緯を理解し、間取りの取り方を説明できる。 ・換気・日照・採光の必要性について理解し、住環境の重要性を説明できる。 ・余条件の整理の仕方からエスキースの進め方を理解し、住宅計画の進め方を説明できる。 ・独立住宅、集合住宅の計画例を参考に、具体的な計画手法を説明できる。								
目標資格	一級建築士、二級建築士								
前提知識	特になし								
使用教材	コンパクト建築設計資料集成（丸善） コンパクト版建築史【日本・西洋】（彰国社） 住宅の計画学入門（鹿島出版会）								
履修上の注意	授業毎のレポートの提出厳守。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	建築の表現①
第2週	建築の表現②
第3週	室と場面①
第4週	室と場面②
第5週	日本建築史①
第6週	日本建築史②
第7週	西洋建築史①
第8週	西洋建築史②
第9週	住生活と住形式①
第10週	間取りの取り方①
第11週	住環境－換気・日照・採光①
第12週	住宅計画の進め方①
第13週	独立住宅の計画①
第14週	集合住宅の計画①
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築計画ＩB					企業連携		授業方法	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	菅原　麻衣子			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物の企画計画を行った経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	建築物を計画するための基本的な考え方や、手法を習得する。また、建築の歴史からも多様な建築文化を理解する。								
到達目標	・建築の表現：設計のプロセス、各種図面、表現を説明できる。 ・室と場面：人体寸法～行為～単位空間の理解、各種場面における計画要素を説明できる。 ・日本建築史：現在のわが国の生活様式と意匠の原点を説明できる。 ・西洋建築史：わが国の建築に影響を与えた諸外国の建築の歴史から近代建築を説明できる。 ・歴史をとおして住生活と住形式を説明できる。 ・歴史と習慣を交え、その変遷にいたる経緯を理解し、間取りの取り方を説明できる。 ・換気・日照・採光の必要性について理解し、住環境の重要性を説明できる。 ・余条件の整理の仕方からエスキースの進め方を理解し、住宅計画の進め方を説明できる。 ・独立住宅、集合住宅の計画例を参考に、具体的な計画手法を説明できる。								
目標資格	一級建築士、二級建築士								
前提知識	建築計画ＩAを習得していること								
使用教材	コンパクト建築設計資料集成（丸善） コンパクト版建築史【日本・西洋】（彰国社） 住宅の計画学入門（鹿島出版会）								
履修上の注意	授業毎のレポートの提出厳守。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	建築の表現③
第2週	建築の表現④
第3週	室と場面③
第4週	室と場面④
第5週	日本建築史③
第6週	日本建築史④
第7週	西洋建築史③
第8週	西洋建築史④
第9週	住生活と住形式②
第10週	間取りの取り方②
第11週	住環境－換気・日照・採光②
第12週	住宅計画の進め方②
第13週	独立住宅の計画②
第14週	集合住宅の計画②
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築一般構造A					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	1年次	履修学期	前期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	伊藤　功啓			実務経験					
目的／概要	建築構造は、各種の材料を用いて目的に適合する建築物を構成する方法を理解し、建築物の構造（仕上げ含み）を科学的、合理的、経済的に設計できる基礎的能力を養う。								
到達目標	以下の内容を説明できる ・建築構造の概要→構法変遷、構造分類、建築上の留意点 ・木構造----------→特徴と形式、木材、軸組構法、枠組壁構法、大断面集成材構法 ・鉄筋コンクリート構造→構造の原理、特徴と形式、配筋の基本、基礎、地盤、 構造計画、柱、壁、梁、床スラブ階段 ・鋼構造--------→特徴と形式、鋼材、接合、骨組、耐火被覆、軽鋼構造、鋼管構造 ・その他の構造---→鉄骨鉄筋コンクリート構造他の構造 ・仕上の構造-----→防水、外部仕上げ、内部仕上げ、開口部								
目標資格	一級建築士、二級建築士、2級建築施工管理技士								
前提知識	特になし								
使用教材	建築構造概論（First Stageシリーズ）（実教出版） ビジュアルハンドブック 必携建築資料（日本建築学会）								
履修上の注意	授業毎にノートをまとめ提出すること。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（レポート　小テスト　配布資料及びノートチェックなどを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	建築構造の概要①
第2週	建築構造の概要②
第3週	木構造①
第4週	木構造②
第5週	木構造③
第6週	鉄筋コンクリート構造①
第7週	鉄筋コンクリート構造②
第8週	鉄筋コンクリート構造③
第9週	鋼構造①
第10週	鋼構造②
第11週	その他の構造と仕上の構造①
第12週	その他の構造と仕上の構造②
第13週	建築物への外力と荷重①
第14週	建築物への外力と荷重②
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築一般構造B					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	1年次	履修学期	後期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	伊藤　功啓			実務経験					
目的／概要	建築構造は、各種の材料を用いて目的に適合する建築物を構成する方法を理解し、建築物の構造（仕上げ含み）を科学的、合理的、経済的に設計できる基礎的能力を養う。								
到達目標	以下の内容を説明できる ・建築構造の概要→構法変遷、構造分類、建築上の留意点 ・木構造----------→特徴と形式、木材、軸組構法、枠組壁構法、大断面集成材構法 ・鉄筋コンクリート構造→構造の原理、特徴と形式、配筋の基本、基礎、地盤、 構造計画、柱、壁、梁、床スラブ階段 ・鋼構造--------→特徴と形式、鋼材、接合、骨組、耐火被覆、軽鋼構造、鋼管構造 ・その他の構造---→鉄骨鉄筋コンクリート構造他の構造 ・仕上の構造-----→防水、外部仕上げ、内部仕上げ、開口部								
目標資格	一級建築士、二級建築士、2級建築施工管理技士								
前提知識	特になし								
使用教材	建築構造概論（First Stageシリーズ）（実教出版） ビジュアルハンドブック 必携建築資料（日本建築学会）								
履修上の注意	授業毎にノートをまとめ提出すること。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（レポート　小テスト　配布資料及びノートチェックなどを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	建築構造の概要③
第2週	建築構造の概要④
第3週	木構造④
第4週	木構造⑤
第5週	木構造⑥
第6週	鉄筋コンクリート構造④
第7週	鉄筋コンクリート構造⑤
第8週	鉄筋コンクリート構造⑥
第9週	鋼構造③
第10週	鋼構造④
第11週	その他の構造と仕上の構造③
第12週	その他の構造と仕上の構造④
第13週	建築物への外力と荷重③
第14週	建築物への外力と荷重④
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	構造力学A					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	1年次	履修学期	前期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	千葉　託巳			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物の実施設計にて構造計画を行った経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	数学的な基礎事項、力の基礎から始め、反力算定をしっかりと修得する。次に建築物に作用する種々の荷重・力に対して建築物の骨組にどのように働くかを理解し、基本的な建築物の構造計算法を習得する。								
到達目標	構造力学に必要な算術計算ができる。 力の基礎、釣り合いの説明できる。 反力、部材に生じる力の計算と、M図Q図が書ける。 トラスの解法を理解し計算ができる。 断面に関する数量を説明できる。 応力度の計算ができる。 座屈、たわみを説明できる。 不静定構造物、塑性解析の基礎的な説明できる。								
目標資格	一級建築士、二級建築士								
前提知識	特になし								
使用教材	図説　やさしい構造力学（学芸出版社）								
履修上の注意	授業終了後必ず復習をすること。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	構造力学に必要な算術計算①
第2週	構造力学に必要な算術計算②・力の基礎、釣り合い①
第3週	力の基礎、釣り合い②
第4週	反力①
第5週	反力②・部材に生じる力①
第6週	部材に生じる力②
第7週	部材に生じる力③
第8週	トラス①
第9週	断面に関する数量①
第10週	応力度①
第11週	座屈、たわみ①
第12週	不静定構造物の基礎①
第13週	不静定構造物の基礎②
第14週	塑性解析の基礎①（弾性と塑性、静定構造の崩壊と全塑性モーメント、不静定構造の崩壊と崩壊荷重、不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力）
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	構造力学B					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	1年次	履修学期	後期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	千葉　託巳			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物の実施設計にて構造計画を行った経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	数学的な基礎事項、力の基礎から始め、反力算定をしっかりと修得する。次に建築物に作用する種々の荷重・力に対して建築物の骨組にどのように働くかを理解し、基本的な建築物の構造計算法を習得する。								
到達目標	構造力学に必要な算術計算ができる。 力の基礎、釣り合いの説明できる。 反力、部材に生じる力の計算と、M図Q図が書ける。 トラスの解法を理解し計算ができる。 断面に関する数量を説明できる。 応力度の計算ができる。 座屈、たわみを説明できる。 不静定構造物、塑性解析の基礎的な説明できる。								
目標資格	一級建築士、二級建築士								
前提知識	構造力学Aを習得していること。								
使用教材	図説　やさしい構造力学（学芸出版社）								
履修上の注意	授業終了後必ず復習をすること。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	構造力学に必要な算術計算③
第2週	構造力学に必要な算術計算④・力の基礎、釣り合い③
第3週	力の基礎、釣り合い④
第4週	反力③
第5週	反力④・部材に生じる力④
第6週	部材に生じる力⑤
第7週	部材に生じる力⑥
第8週	トラス②
第9週	断面に関する数量②
第10週	応力度②
第11週	座屈、たわみ②
第12週	不静定構造物の基礎③
第13週	不静定構造物の基礎④
第14週	塑性解析の基礎②（弾性と塑性、静定構造の崩壊と全塑性モーメント、不静定構造の崩壊と崩壊荷重、不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力）
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	コンピュータ基礎A					企業連携		授業方法	講義・実習
履修年次	1年次	履修学期	前期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	丸山　千恵			実務経験					
目的／概要	・パーソナルコンピュータについて、ハードウェアやソフトウェア、周辺機器などに関する基本的な知識を身につける ・インターネットやメール、LANをはじめとするネットワークの基本的な知識を身につける。 ・情報化社会における問題点や法整備、モラル等について基本的な知識を身につける。 ・AIリテラシの習得。 ・Microsoft Office Excelの修得。 ・CAD利用技術者基礎試験の対策。								
到達目標	・パーソナルコンピュータの仕組みを理解し、内部接続や周辺機器との接続ができるようになる。 ・ネットワークに関する知識を深め、家庭や職場からインターネットに接続できるようになる。 ・情報化社会におけるマナーや法律を理解し、正しく運用することができるようになる。 ・ネット社会における影の部分を理解し、何が正しく何が正しくないのかを判断できるようになる。 ・AIに関する基本的な考え方や知識、活用事例などについて理解する。 ・Microsoft Office Excelによる集計表の作成。 ・CAD利用技術者基礎試験　合格。								
目標資格	・CAD利用技術者基礎試験								
前提知識	・高等学校の情報科目履修程度の知識								
使用教材	・CAD利用技術者試験2級・基礎公式ガイドブック								
履修上の注意	・今やコンピュータやネットワークの知識は、社会に出ていく上で必須となってきている。積極的に身につけるように心掛けること。								
成績評価の方法	・定期試験：40% ・課題内容・提出状況：40% ・授業に取り組む姿勢：20%等により総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	・Windowsの基本操作　・検索ソフト、学生用HP(グループウェア、電子メール)の利用方法
第2週	・情報倫理：Infoss　e-Learning①
第3週	・情報倫理：Infoss　e-Learning②
第4週	・AIリテラシに関する動画の視聴および関連用語の理解。AIに関連するテーマを設定し グループワーク・成果発表を行うなど、アクティブラーニングを実践する。
第5週	・CAD利用技術者基礎試験の対策①
第6週	・CAD利用技術者基礎試験の対策②
第7週	・CAD利用技術者基礎試験の対策③
第8週	・CAD利用技術者基礎試験の対策④
第9週	・CAD利用技術者基礎試験の対策⑤
第10週	・CAD利用技術者基礎試験の対策⑥
第11週	・CAD利用技術者基礎試験の対策⑦
第12週	・CAD利用技術者基礎試験の対策⑧
第13週	・CAD利用技術者基礎試験の対策⑨
第14週	・CAD利用技術者基礎試験の対策⑩
第15週	・CAD利用技術者基礎試験の対策⑪

建築科　　科目コード

科目名	コンピュータ基礎B					企業連携		授業方法	講義・実習
履修年次	1年次	履修学期	後期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	丸山　千恵			実務経験					
目的／概要	・パーソナルコンピュータについて、ハードウェアやソフトウェア、周辺機器などに関する基本的な知識を身につける ・インターネットやメール、LANをはじめとするネットワークの基本的な知識を身につける。 ・情報化社会における問題点や法整備、モラル等について基本的な知識を身につける。 ・AIリテラシの習得。 ・Microsoft Office Excelの修得。 ・CAD利用技術者基礎試験の対策。								
到達目標	・パーソナルコンピュータの仕組みを理解し、内部接続や周辺機器との接続ができるようになる。 ・ネットワークに関する知識を深め、家庭や職場からインターネットに接続できるようになる。 ・情報化社会におけるマナーや法律を理解し、正しく運用することができるようになる。 ・ネット社会における影の部分を理解し、何が正しく何が正しくないのかを判断できるようになる。 ・AIに関する基本的な考え方や知識、活用事例などについて理解する。 ・Microsoft Office Excelによる集計表の作成。 ・CAD利用技術者基礎試験　合格。								
目標資格	・CAD利用技術者基礎試験								
前提知識	・コンピュータ基礎Aを履修していること。								
使用教材	・CAD利用技術者試験2級・基礎公式ガイドブック								
履修上の注意	・今やコンピュータやネットワークの知識は、社会に出ていく上で必須となってきている。積極的に身につけるように心掛けること。								
成績評価の方法	・定期試験：40% ・課題内容・提出状況：40% ・授業に取り組む姿勢：20%等により総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	・Microsoft Office Excel①
第2週	・Microsoft Office Excel②
第3週	・Microsoft Office Excel③
第4週	・Microsoft Office Excel④
第5週	・Microsoft Office Excel⑤
第6週	・Microsoft Office Excel⑥
第7週	・Microsoft Office Excel⑦
第8週	・Microsoft Office Excel⑧
第9週	・Microsoft Office Excel⑨
第10週	・Microsoft Office Excel⑩
第11週	・Microsoft Office Excel⑪
第12週	・Microsoft Office Excel⑫
第13週	・Microsoft Office Excel⑬
第14週	・Microsoft Office Excel⑭
第15週	・演習

建築科

2年

建築科　　科目コード

科目名	就職対策Ⅱ					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	前期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	松野　義勝			実務経験					
目的／概要	・自分がどのような仕事をしたいのか、どのような業種に進みたいのか、などについて絞込みを行う。 ・希望する企業から内定を獲得するために、より実践的に、就職試験に即した内容について学習する。 ・社会人として身につけておきたいコミュニケーション能力、マナー、ルール、一般常識等について学習する。								
到達目標	・1年次の就職対策ＩA・B、そして就職対策Ⅱの授業内容について理解・実践し、就職活動及び就職試験に十分生かし、希望する企業から内定を獲得する。								
目標資格	特になし								
前提知識	・就職対策ＩA・Bが履修済みであること(1年次)。								
使用教材	・面接対策＆ビジネスマナー　＋　DVD ・自己分析ワークシート ・職業紹介DVD								
履修上の注意	・就職活動は自分自身のために行う活動である。自主的かつ積極的に行動すること。								
成績評価の方法	・課題内容・提出状況:80% ・就職活動・授業に取り組む姿勢:20% 等により総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	・オリエンテーション
第2週	・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談
第3週	・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談
第4週	・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談
第5週	・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談
第6週	・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談
第7週	・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談
第8週	・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談
第9週	・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談
第10週	・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談
第11週	・一般常識問題の練習
第12週	・履歴書、エントリーシート等の作成練習
第13週	・就職活動における言葉遣いや態度、基本動作等についての実践練習
第14週	・グループディスカッション
第15週	・個別面談

建築科　　科目コード

科目名	建築設計製図Ⅱ					企業連携		授業方法	実習・講義
履修年次	2年次	履修学期	前期	時限／週	4	総授業時間	120	単位	4
担当教員	安田　亜乃ん 西條　芳郎 菅原　麻衣子			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物を設計した経験を活かし、公共建築物の設計方法について実践的な教育を行い、建築士製図試験対策指導経験者による昨今の試験の傾向を学ぶ				
目的／概要	都市、自然環境との調和をめざす建築課題を通して施工・法規・設備の理解を深め建築実務への応用方法を修得する事と、二級建築士設計製図試験に必要な製図能力を修得を目的とする。 公共空間を中心にした課題設計では社会的・都市的観点から考察、建物の存在意義と必然性を論理的に考え計画をしていく過程を学び、製作した作品を発表会に出品することもある。 住宅設計課題では設計方法、図面表現方法を建築士製図試験指導経験者の一級建築士の元で学び、二級建築士設計製図試験に必要な製図能力を修得する。								
到達目標	公共建築物の設計課題では、地域的考察〔現地調査〕ゾーニンク、エスキスから設計していくまでの過程を習得する。 設計内容を図面、ボード、スライド、アニメーションでプレゼンテーションを行う。 木造住宅の図面表現方法と作成手法を習得して作図表現する。 木造建築物の構造の理解をし、かなばかり図として作図表現する。 平面計画から木造軸組構法の架構設計を行い、伏図、軸組図として作図表現する。 鉄筋コンクリート造のサンプルを作ることで、RC造を理解する。								
目標資格	一級建築士、二級建築士								
前提知識	建築設計製図ＩA・Bを履修していること。								
使用教材	コンパクト建築設計資料集成（丸善） 住まいの建築設計製図（学芸出版社）　初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ（彰国社）								
履修上の注意	住宅の設計手法を修得すると同時に、卒業後受験する2級建築士設計製図試験を想定し、試験時間内に作図できる実践的な作図スピードを修得するとともに、課題の提出期限を守ること。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 実習点70％　（提出点40％+課題点60％） 提出点：演習課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点：演習課題の完成レベルと制作の工夫などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	事例研究・敷地調査～敷地模型作成
第2週	敷地調査～敷地模型作成
第3週	ボリュームスタディ
第4週	機能の検討
第5週	空間の検討・細部の検討
第6週	木造住宅の平面図作成
第7週	木造住宅の配置図作成
第8週	木造住宅の断面図作成
第9週	木造住宅のかなばかり図作成
第10週	木造住宅の伏図作成・木造住宅の軸組図作成
第11週	鉄筋コンクリート造の設計
第12週	鉄筋コンクリート造の設計
第13週	鉄筋コンクリート造の設計
第14週	鉄筋コンクリート造の設計
第15週	コンクリート圧縮強度試験

建築科　　科目コード

科目名	建築計画ⅡA					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	前期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	西條　芳郎			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物を設計する傍ら自然環境教育ファシリテーターとして環境教育を行っている経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	公共建築物の内、交流、教育、展示施設を取上げ、具体的な建築計画の手法を習得する。 住宅建築では敷地条件、家族構成により主な構成が決定される。本授業では、より実践的な住宅計画手法を具体例を元に検証し、詳細な計画方法を理解する。								
到達目標	・交流、教育、展示施設計画においては、計画上の要点ならびに計画各論について説明できる。 ・住宅配置、平面計画においては動線計画、ゾーニング計画の手法を説明できる。 ・住宅断面、立面計画では標準的な高さ寸法の根拠を理解し、全体として構成する手法を説明できる。 ・住宅構造計画では、在来木造、鉄筋コンクリート造の構造特性を理解し、計画上の制約を説明できる。 ・住宅設備計画では快適な住環境を実現する住宅設備の概要を説明できる。								
目標資格	一級建築士、二級建築士								
前提知識	建築計画ＩA・Bを履修していること。								
使用教材	コンパクト建築設計資料集成（丸善） 住宅の計画学入門（鹿島出版会）								
履修上の注意	授業終了後復習を行うこと。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	交流施設計画①
第2週	教育施設計画①
第3週	展示施設計画①
第4週	住宅配置計画①
第5週	住宅平面計画①
第6週	住宅平面計画②
第7週	住宅平面計画③
第8週	住宅断面計画①
第9週	住宅断面計画②
第10週	住宅断面計画③
第11週	住宅断面計画④
第12週	住宅立面計画①
第13週	住宅構造計画①
第14週	住宅設備計画①
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築計画ⅡB					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	後期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	西條　芳郎			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物を設計する傍ら自然環境教育ファシリテーターとして環境教育を行っている経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	公共建築物の内、交流、教育、展示施設を取上げ、具体的な建築計画の手法を習得する。 住宅建築では敷地条件、家族構成により主な構成が決定される。本授業では、より実践的な住宅計画手法を具体例を元に検証し、詳細な計画方法を理解する。								
到達目標	・交流、教育、展示施設計画においては、計画上の要点ならびに計画各論について説明できる。 ・住宅配置、平面計画においては動線計画、ゾーニング計画の手法を説明できる。 ・住宅断面、立面計画では標準的な高さ寸法の根拠を理解し、全体として構成する手法を説明できる。 ・住宅構造計画では、在来木造、鉄筋コンクリート造の構造特性を理解し、計画上の制約を説明できる。 ・住宅設備計画では快適な住環境を実現する住宅設備の概要を説明できる。								
目標資格	一級建築士、二級建築士								
前提知識	建築計画ⅠA・B、建築計画ⅡA、建築法規Aを履修していること。								
使用教材	コンパクト建築設計資料集成（丸善） 住宅の計画学入門（鹿島出版会）								
履修上の注意	授業終了後復習を行うこと。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	交流施設計画②
第2週	教育施設計画②
第3週	展示施設計画②
第4週	住宅配置計画②
第5週	住宅平面計画④
第6週	住宅平面計画⑤
第7週	住宅平面計画⑥
第8週	住宅断面計画⑤
第9週	住宅断面計画⑥
第10週	住宅断面計画⑦
第11週	住宅断面計画⑧
第12週	住宅立面計画②
第13週	住宅構造計画②
第14週	住宅設備計画②
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築環境工学					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	前期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	西條　芳郎			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物を設計する傍ら自然環境教育ファシリテーターとして環境教育を行っている経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	気象・伝熱・換気・音響・日照・採光の建築計画へのアプローチの方法について習得する。 建築と環境を形成する様々な問題とその解決法、自然環境を利用・制御して安全で快適な居住空間を得るため基本を理解し、それらを建築に適用するための、よりよい建築設計の基礎知識を身につける。								
到達目標	・建築環境の目的、意義を説明できる。 ・建築環境の考え方を説明できる。 ・環境要素（気象・伝熱・換気・音響・日照・採光など）を説明できる。 ・演習問題での建築環境の習得確認を行う。								
目標資格	一級建築士、二級建築士								
前提知識	建築計画ＩA・B、建築一般構造ＩA・Bを履修していること。								
使用教材	初めての建築環境（学芸出版社）								
履修上の注意	授業終了後復習を行うこと。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	建築環境工学の概要
第2週	気候①
第3週	気候②
第4週	伝熱と結露①
第5週	伝熱と結露②
第6週	換気と通風①
第7週	換気と通風②
第8週	日照と日射①
第9週	日照と日射②
第10週	採光・照明と色彩①
第11週	採光・照明と色彩②
第12週	音環境①
第13週	音環境②
第14週	都市環境
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築設備					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	後期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	西條　芳郎			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物の実施設計にて設備計画を行った経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	建築と設備は不離不即の関係にある。建築物の中で占める設備の役割は、技術の発展とともに重要度がまし、設備の知識がなくては建築物の計画が困難となってきた。建築物は居住，執務、生産、集会、娯楽など目的によりつくられる。これらの目的の機能を維持し、安全、衛生を確保するため、必要に応じて建築設備が設けられるため、各種設備の基礎と知識と相互関連性を理解することを学ぶ。								
到達目標	・建築と設備→建築物の役割と人間生活役立つ快適空間、装置空間設備を説明できる。 ・給排水衛生設備→建築物に供給される良好な水質と、その排水設備を説明できる。 ・空気調和設備→空気の状態を人工的に調整する設備を説明できる。 ・換気排煙設備→室内空気清浄化、熱・水蒸気除去・酸素供給、防災設備を説明できる。 ・電気設備→建物に電気を取り入れる設備を説明できる。 ・輸送搬送設備→人を運ぶ、物を運ぶ設備を説明できる。								
目標資格	一級建築士、二級建築士								
前提知識	建築計画ＩA・B、建築環境工学を履修していること								
使用教材	初学者の建築講座　建築設備（市ヶ谷出版）								
履修上の注意	授業終了後復習を行うこと。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	建築設備概論①
第2週	建築設備概論②
第3週	建築設備概論③
第4週	給排水衛生設備①
第5週	給排水衛生設備②
第6週	給排水衛生設備③
第7週	空気調和設備①
第8週	空気調和設備②
第9週	換気排煙設備①
第10週	換気排煙設備②
第11週	電気設備①
第12週	電気設備②
第13週	搬送設備①
第14週	搬送設備2
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築材料A					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	前期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	佐竹　正行			実務経験					
目的／概要	建築材料の知識について理解と習熟を目的として学習する。								
到達目標	建築物に用いられる様々な建築材料を建築の骨組に用いられる構造材料と、外装・内装に用いられる仕上材料などに大別して、各種材料の特性や使用方法などについて説明できる。								
目標資格	一級建築士、二級建築士、2級建築施工管理技士								
前提知識	特になし								
使用教材	ベーシック 建築材料（彰国社） ビジュアルハンドブック　必携建築資料（日本建築学会）								
履修上の注意	実際に使用する材料と試験問題に必要な基礎知識を習得する								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	建築材料の概要①
第2週	建築材料の概要②
第3週	建築材料の概要③
第4週	建築材料の概要④
第5週	構造材料　（木材、コンクリート、鋼材）①
第6週	構造材料　（木材、コンクリート、鋼材）②
第7週	構造材料　（木材、コンクリート、鋼材）③
第8週	構造材料　（木材、コンクリート、鋼材）④
第9週	構造材料　（木材、コンクリート、鋼材）⑤
第10週	仕上材料　（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）①
第11週	仕上材料　（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）②
第12週	仕上材料　（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）③
第13週	仕上材料　（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）④
第14週	仕上材料　（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）⑤
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築材料B					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	後期	時限／週	1	総授業時間	60	単位	4
担当教員	佐竹　正行			実務経験					
目的／概要	建築材料の知識について理解と習熟を目的として学習する。								
到達目標	建築物に用いられる様々な建築材料を建築の骨組に用いられる構造材料と、外装・内装に用いられる仕上材料などに大別して、各種材料の特性や使用方法などについて説明できる。								
目標資格	一級建築士、二級建築士、2級建築施工管理技士								
前提知識	建築一般構造ＩA・B、建築生産Aを履修していること。								
使用教材	ベーシック 建築材料（彰国社） ビジュアルハンドブック　必携建築資料（日本建築学会）								
履修上の注意	実際に使用する材料と試験問題に必要な基礎知識を習得する								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	建築材料の概要⑤
第2週	建築材料の概要⑥
第3週	建築材料の概要⑦
第4週	建築材料の概要⑧
第5週	構造材料　（木材、コンクリート、鋼材）⑥
第6週	構造材料　（木材、コンクリート、鋼材）⑦
第7週	構造材料　（木材、コンクリート、鋼材）⑧
第8週	構造材料　（木材、コンクリート、鋼材）⑨
第9週	構造材料　（木材、コンクリート、鋼材）⑩
第10週	仕上材料　（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）⑥
第11週	仕上材料　（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）⑦
第12週	仕上材料　（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）⑧
第13週	仕上材料　（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）⑨
第14週	仕上材料　（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）⑩
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築生産A					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	前期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	佐竹　正行			実務経験					
目的／概要	建築の構造の基本である木造、鉄筋コンクリート、鉄骨造を中心に施工方法と施工管理について学ぶ。								
到達目標	以下の内容を説明できる ・建築施工管理の意義 　建築生産・施工方式・建築業務等に関する基礎 ・施工管理の種類 　工程・品質・安全等施工管理に必要な基礎 ・各施工方法・積算 　各施工の順序、施工方法・積算業務に関する基礎								
目標資格	一級建築士、二級建築士、2級建築施工管理技士								
前提知識	建築一般構造Ⅰを履修していること。								
使用教材	〈第二版〉専門士課程　建築施工（学芸出版社）								
履修上の注意	授業終了後復習を行うこと。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	施工計画、施工管理①
第2週	施工計画、施工管理②
第3週	工事準備、仮説工事、土工事・地業工事・基礎工事①
第4週	鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事①
第5週	鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事②
第6週	鉄骨工事①
第7週	木工事①
第8週	木工事②
第9週	防水工事、左官工事①
第10週	防水工事、左官工事②
第11週	タイル工事・石工事①
第12週	タイル工事・石工事②
第13週	建具工事、ガラス工事、内装工事、設備工事①
第14週	積算、契約①
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築生産B					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	前期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	佐竹　正行			実務経験					
目的／概要	建築の構造の基本である木造、鉄筋コンクリート、鉄骨造を中心に施工方法と施工管理について学ぶ。								
到達目標	以下の内容を説明できる ・建築施工管理の意義 　建築生産・施工方式・建築業務等に関する基礎 ・施工管理の種類 　工程・品質・安全等施工管理に必要な基礎 ・各施工方法・積算 　各施工の順序、施工方法・積算業務に関する基礎								
目標資格	一級建築士、二級建築士、2級建築施工管理技士								
前提知識	建築一般構造Ⅰを履修していること。								
使用教材	〈第二版〉専門士課程　建築施工（学芸出版社）								
履修上の注意	授業終了後復習を行うこと。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	施工計画、施工管理③
第2週	施工計画、施工管理④
第3週	工事準備、仮説工事、土工事・地業工事・基礎工事②
第4週	鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事③
第5週	鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事④
第6週	鉄骨工事②
第7週	木工事③
第8週	木工事④
第9週	防水工事、左官工事③
第10週	防水工事、左官工事④
第11週	タイル工事・石工事③
第12週	タイル工事・石工事④
第13週	建具工事、ガラス工事、内装工事、設備工事②
第14週	積算、契約②
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築法規A					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	前期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	西條　芳郎			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物を設計する傍ら自然環境教育ファシリテーターとして環境教育を行っている経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	建築基準法とその関係法規について、条文の解釈・考え方や規定内容について学ぶ。また、法令集の構成を理解し、検索法を習得する。								
到達目標	・用語の定義 　建築用語として意味を考えながら法律に馴染む。 ・単体規定について 　日本全国どこでも建物に必要な構造、安全、避難、設備等に関する法律について学ぶ。 ・集団規定について 　都市計画区域内で適用する建築の用途、形態、規模に関する法律について学ぶ。								
目標資格	一級建築士、二級建築士、2級建築施工管理技士								
前提知識	高等学校卒業程度の一般常識								
使用教材	超入門建築基準法（市ヶ谷出版社） 建築基準法関係法令集（建築資料研究社）								
履修上の注意	・建築基準法の法令集の使い方に慣れまた引き方に慣れ「集団規定」「単体規定」「関係法令」に関して理解する。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	法令概論（建築基準法と関係法令）①
第2週	法令概論（建築基準法と関係法令）②
第3週	総則（目的、用語の定義、設計と監理、手続き）①
第4週	総則（目的、用語の定義、設計と監理、手続き）②
第5週	総則（目的、用語の定義、設計と監理、手続き）③
第6週	総則（目的、用語の定義、設計と監理、手続き）④
第7週	単体規定（構造耐力、耐火防火、室内環境、避難）①
第8週	単体規定（構造耐力、耐火防火、室内環境、避難）②
第9週	単体規定（構造耐力、耐火防火、室内環境、避難）③
第10週	単体規定（構造耐力、耐火防火、室内環境、避難）④
第11週	集団規定（道路と敷地、用途制限、容積・建ぺい率、高さ制限、日影規制、防火地域）①
第12週	集団規定（道路と敷地、用途制限、容積・建ぺい率、高さ制限、日影規制、防火地域）②
第13週	集団規定（道路と敷地、用途制限、容積・建ぺい率、高さ制限、日影規制、防火地域）③
第14週	集団規定（道路と敷地、用途制限、容積・建ぺい率、高さ制限、日影規制、防火地域）④
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	建築法規B					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	後期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	西條　芳郎			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物を設計する傍ら自然環境教育ファシリテーターとして環境教育を行っている経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	建築基準法とその関係法規について、条文の解釈・考え方や規定内容について学ぶ。また、法令集の構成を理解し、検索法を習得する。								
到達目標	・用語の定義 　建築用語として意味を考えながら法律に馴染む。 ・単体規定について 　日本全国どこでも建物に必要な構造、安全、避難、設備等に関する法律について学ぶ。 ・集団規定について 　都市計画区域内で適用する建築の用途、形態、規模に関する法律について学ぶ。								
目標資格	一級建築士、二級建築士、2級建築施工管理技士								
前提知識	高等学校卒業程度の一般常識								
使用教材	超入門建築基準法（市ヶ谷出版社） 建築基準法関係法令集（建築資料研究社）								
履修上の注意	・建築基準法の法令集の使い方に慣れまた引き方に慣れ「集団規定」「単体規定」「関係法令」に関して理解する。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 考査点50％（半期期末考査、場合により中間考査も実施） 課題点20％（学習項目毎の小テスト、課題レポート他）などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	法令概論（建築基準法と関係法令）③
第2週	法令概論（建築基準法と関係法令）④
第3週	総則（目的、用語の定義、設計と監理、手続き）⑤
第4週	総則（目的、用語の定義、設計と監理、手続き）⑥
第5週	総則（目的、用語の定義、設計と監理、手続き）⑦
第6週	総則（目的、用語の定義、設計と監理、手続き）⑧
第7週	単体規定（構造耐力、耐火防火、室内環境、避難）⑤
第8週	単体規定（構造耐力、耐火防火、室内環境、避難）⑥
第9週	単体規定（構造耐力、耐火防火、室内環境、避難）⑦
第10週	単体規定（構造耐力、耐火防火、室内環境、避難）⑧
第11週	集団規定（道路と敷地、用途制限、容積・建ぺい率、高さ制限、日影規制、防火地域）⑤
第12週	集団規定（道路と敷地、用途制限、容積・建ぺい率、高さ制限、日影規制、防火地域）⑥
第13週	集団規定（道路と敷地、用途制限、容積・建ぺい率、高さ制限、日影規制、防火地域）⑦
第14週	集団規定（道路と敷地、用途制限、容積・建ぺい率、高さ制限、日影規制、防火地域）⑧
第15週	演習・考査

建築科　　科目コード

科目名	卒業制作					企業連携		授業方法	
履修年次	2年次	履修学期	後期	時限／週	4	総授業時間	120	単位	4
担当教員	安田　亜乃ん 西條　芳郎 菅原　麻衣子			実務経験	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物の企画設計を行った経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	建築設計製図Ⅱまでの学習成果をふまえ、なおかつ2年間の知識や技術を集大成するとともに体系化し、より高度な設計能力を習得する。各自自由テーマによる企画設計。								
到達目標	各自自由テーマによる企画設計 各自設定したテーマに基づき、文化・歴史的流れ、社会・都市的観点から考察、建物の存在意義と必然性を論理的に考え計画する。企画書作成から現地調査を踏まえ具体的な形として検討、設計を行う。作品制作の完成、発表、講評を通して建築設計の意義を学ぶ。								
目標資格	特になし。								
前提知識	建築設計製図Ⅱまでの履修とすでに履修を終えたものの知識。								
使用教材	「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会 講義時に配布する資料								
履修上の注意	決められた提出期限を厳守する事。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 実習点70％（提出点40％+課題点60％） 提出点：演習課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点：演習課題の完成レベルと制作の工夫、課題の発表などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	各自自由テーマ探求・決定
第2週	各自自由テーマによる企画設計・作成①
第3週	各自自由テーマによる企画設計・作成②
第4週	各自自由テーマによる企画設計・作成③
第5週	各自自由テーマによる企画設計・作成④
第6週	各自自由テーマによる企画設計・作成⑤
第7週	各自自由テーマによる企画設計・作成⑥
第8週	各自自由テーマによる企画設計・作成⑦
第9週	各自自由テーマによる企画設計・作成⑧
第10週	各自自由テーマによる企画設計・作成⑨
第11週	各自自由テーマによる企画設計・作成⑩
第12週	各自自由テーマによる企画設計・作成⑪
第13週	各自自由テーマによる企画設計・作成⑫
第14週	各自自由テーマによる企画設計・作成⑬
第15週	発表会

建築科　　科目コード

科目名	CAD設計ⅡA					企業連携		授業方法	
履修年次	2年次	履修学期	前期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	伊藤　功啓			実務経験					
目的／概要	建築業界で現在普及している複数のCADと今後導入が進む最新のBIMの操作方法を修得する。また、スクリプトを駆使したアルゴリズムデザイン、クラウドを利用したCADデータの共有化、モバイル活用など、最新のCAD利用環境を体験し、CAD利用技術者としての実践力を高める。								
到達目標	AutoCADの基本操作を修得する。 Revitの基本操作を修得する。 JW-CADの基本操作を修得する。 JW-CADによる日影図、天空図の作成方法を修得する。 Rhinoceros + Grasshopperの基本操作を修得する。								
目標資格	CAD利用技術者試験								
前提知識	1年次CAD設計ＩＡ・B（2次元、3次元の基礎）を履修していること。								
使用教材	AutoCADLTで学ぶ建築製図の基本(X-Knowledge) はじめてのAutodesk Revit&Revit LT 実践! BIM入門ガイド](X-Knowledge) Jw__cad 木造住宅設計入門(X-Knowledge)								
履修上の注意	・授業の進行と、その習熟度の向上と再確認が必要。 ・授業終了時には必ずデータを保存する事。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 実習点70％（提出点40％+課題点60％） 提出点：演習課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点：演習課題の完成レベルと制作の工夫、課題の発表などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	AutoCADの基本操作①
第2週	AutoCADの基本操作②
第3週	AutoCADの基本操作③
第4週	AutoCADの基本操作④
第5週	AutoCADの基本操作⑤
第6週	AutoCADの基本操作⑥
第7週	AutoCADの基本操作⑦
第8週	JW-CADの基本操作①
第9週	JW-CADの基本操作②
第10週	JW-CADの基本操作③
第11週	JW-CADの基本操作④
第12週	JW-CADの基本操作⑤
第13週	JW-CADの基本操作⑥
第14週	JW-CADの基本操作⑦
第15週	演習・発表

建築科　　科目コード

科目名	CAD設計ⅡB					企業連携		授業方法	
履修年次	2年次	履修学期	後期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	伊藤　功啓			実務経験					
目的／概要	建築業界で現在普及している複数のCADと今後導入が進む最新のBIMの操作方法を修得する。また、スクリプトを駆使したアルゴリズムデザイン、クラウドを利用したCADデータの共有化、モバイル活用など、最新のCAD利用環境を体験し、CAD利用技術者としての実践力を高める。								
到達目標	AutoCADの基本操作を修得する。 Revitの基本操作を修得する。 JW-CADの基本操作を修得する。 JW-CADによる日影図、天空図の作成方法を修得する。 Rhinoceros + Grasshopperの基本操作を修得する。								
目標資格	CAD利用技術者試験								
前提知識	1年次CAD設計ＩＡ・B（2次元、3次元の基礎）を履修していること。								
使用教材	AutoCADLTで学ぶ建築製図の基本(X-Knowledge) はじめてのAutodesk Revit&Revit LT 実践! BIM入門ガイド](X-Knowledge) Jw_cad 木造住宅設計入門(X-Knowledge)								
履修上の注意	・授業の進行と、その習熟度の向上と再確認が必要。 ・授業終了時には必ずデータを保存する事。								
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢30％ 実習点70％（提出点40％+課題点60％） 提出点：演習課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点：演習課題の完成レベルと制作の工夫、課題の発表などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	ポートフォリオの作成①
第2週	ポートフォリオの作成②
第3週	ポートフォリオの作成③
第4週	ポートフォリオの作成④
第5週	ポートフォリオの作成⑤
第6週	ポートフォリオの作成⑥
第7週	ポートフォリオの作成⑦
第8週	ポートフォリオの作成①
第9週	ポートフォリオの作成②
第10週	ポートフォリオの作成③
第11週	ポートフォリオの作成④
第12週	ポートフォリオの作成⑤
第13週	ポートフォリオの作成⑥
第14週	ポートフォリオの作成⑦
第15週	演習・発表

建築科　　科目コード

科目名	建築演習A					企業連携		授業方法	
履修年次	2年次	履修学期	前期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	伊藤　功啓 菅原　麻衣子			実務経験	資格学校等で建築士・建築施工管理技士試験対策授業での指導経験を活かし学科（1次試験）対策の実践的な教育を行う。 建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物の設計をしてきた経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	・建築演習では、建築の現場実践的な理解を建築施工管理技術検定試験の1次検定、及び建築士の「計画」「構造力学」「施工」「法規」の試験問題を中心に、応用できる知識の習得を目的に開講する。								
到達目標	項目ごとの内容説明と演習を繰り返し、習熟度を上げることを目標とする。 ①2級建築施工管理技術者試験の対策 ②2級建築士試験の対策 ③月末試験の実施								
目標資格	一級建築士、二級建築士、2級建築施工管理技士								
前提知識	1年次の各科目を履修していること。								
使用教材	・授業時に配布する資料 ・2級建築施工管理技士学科テキスト+問題解説集 ・2級建築士 過去問題集チャレンジ7								
履修上の注意	・ 授業の進行と、その習熟度の向上と再確認が必要。 ・ 各項目ごとの演習と解説で、理解度を再確認することが必要。 ・ 月末（終了）試験での個人成績の確認と、成績の向上を努力すること。								
成績評価の方法	・学期末試験の結果をベースに、学期末考査で施工系科目の基礎的な知識を身につければ合格（60点）。 ・授業への取り組む姿勢と、各項目ごと終了テストができればその分を加算。出席状況を加味し総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	オリエンテーション
第2週	2級建築施工管理技術検定試験の対策①
第3週	2級建築施工管理技術検定試験の対策②
第4週	2級建築施工管理技術検定試験の対策③
第5週	2級建築施工管理技術検定試験の対策④
第6週	2級建築施工管理技術検定試験の対策⑤
第7週	2級建築施工管理技術検定試験の模擬試験①
第8週	2級建築施工管理技術検定試験の模擬試験②
第9週	2級建築施工管理技術検定試験の模擬試験③
第10週	2級建築施工管理技術検定試験の模擬試験④
第11週	2級建築施工管理技術検定試験の模擬試験⑤
第12週	2級建築士試験の対策 計画①
第13週	2級建築士試験の対策 計画②
第14週	2級建築士試験の対策 計画③
第15週	2級建築士試験の対策 計画④

建築科　　科目コード

科目名	建築演習B					企業連携		授業方法	
履修年次	2年次	履修学期	後期	時限／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	伊藤　功啓 菅原　麻衣子			実務経験	資格学校等で建築士・建築施工管理技士試験対策授業での指導経験を活かし学科（1次試験）対策の実践的な教育を行う。 建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物の設計をしてきた経験を活かし、実践的な教育を行う。				
目的／概要	・建築演習では、建築の現場実践的な理解を建築施工管理技術検定試験の1次検定、及び建築士の「計画」「構造力学」「施工」「法規」の試験問題を中心に、応用できる知識の習得を目的に開講する。								
到達目標	項目ごとの内容説明と演習を繰り返し、習熟度を上げることを目標とする。 ①2級建築施工管理技術者試験の対策 ②2級建築士試験の対策 ③月末試験の実施								
目標資格	一級建築士、二級建築士、2級建築施工管理技士								
前提知識	2年次前期までに学習した知識								
使用教材	・授業時に配布する資料 ・2級建築士 過去問題集チャレンジ7								
履修上の注意	・ 授業の進行と、その習熟度の向上と再確認が必要。 ・ 各項目ごとの演習と解説で、理解度を再確認することが必要。 ・ 月末（終了）試験での個人成績の確認と、成績の向上を努力すること。								
成績評価の方法	・学期末試験の結果をベースに、学期末考査で施工系科目の基礎的な知識を身につければ合格（60点）。 ・授業への取り組む姿勢と、各項目ごと終了テストができればその分を加算。出席状況を加味し総合的に評価する。								

授業計画・授業内容	
第1週	オリエンテーション
第2週	2級建築士試験の対策 構造力学①
第3週	2級建築士試験の対策 構造力学②
第4週	2級建築士試験の対策 構造力学③
第5週	2級建築士試験の対策 構造力学④
第6週	2級建築士試験の対策 施工①
第7週	2級建築士試験の対策 施工②
第8週	2級建築士試験の対策 施工③
第9週	2級建築士試験の対策 施工④
第10週	2級建築士試験の対策 法規①
第11週	2級建築士試験の対策 法規②
第12週	2級建築士試験の対策 法規③
第13週	2級建築士試験の対策 法規④
第14週	2級建築士試験の模擬試験①
第15週	2級建築士試験の模擬試験②